



関西出身の四人のサムライをご紹介します

青 木さんはすごいですなあ。人脈、普通やありませんね——。

よう東京で会うおっちゃん、珍しくほめてくれます。そう言えば、このおっちゃん、関西出身やないのに、僕とは関西弁もどきでしゃべります。

瀬戸内海の沿岸で育ったそうで、子どもの頃は、ラジオで「お父さんはお人好し」これ、花菱アチャコと浪花千栄子の主演でしたかいな。テレビでは、大村崑ちゃんや芦屋雁之助が出演した「番頭はんと丁稚どん」、兄弟漫才コンビの中田ダイマル、ラケット主演の「スチャラカ社員」などを見ていたそうです。歳わかるね。

そうそうスチャラカには、藤純子、いまの富司純子さんが、デビュー仕立てに出演したコメディドラマです。今や押しも押されぬ大女優の富司さんですが、確かこのころは十代、かわいかったですなあ。

**青木さん本人はともかく
すごい人に会わせてもらいました**

「そんなこと、どうでもいいやありませんか。僕のいいたいのは青木さんの人脈です」とおっちゃんは、話を戻します。

「青木さん本人はともかく（なんやそれ？）、おかげさんで、

すごい人たちに会わせてもらいました」。

彼に僕が紹介したのは、次の方々です。

まず、大阪市立大学の学長さんの荒川哲男先生です。

僕とのお付き合いは、医者の学会で聴いている人が、眠らないように僕の講演を混ぜたことからです。先生、ようわかっますなあ。

そして僕らと、医学界と中小企業の仲立ちする「医療コンソーシアム」を立ち上げ、医療の機器や環境の改善を、患者さんや介護を受ける人たちの視点から考えてます。

先生は、これらのことを通して、大阪に賑わいを取り戻すという、市立大学学長としての役割も忘れてません。

僕は「荒川先生を男にせにゃ」と常に言ってます。そうすると先生は「今更、男にされても困りますなあ」と訳のわからんこと言つてとほけてはります。

次にご紹介する山形大学の城戸淳二先生は、有機ELの研究者として、世界的に著名な方です。

はやりのLEDは点で光るのに比べ、有機ELは面で柔らかい光を出します。まぶしゅうのうて照明には、格好の素材だそうですね。まるで髪の毛の撤退した頭部のようにすなあ。

城戸先生は昨年、ノーベル賞候補の一人として、科学ジャーナ



●(株)アオキ取締役会長
青木 豊彦 (あおき・とよひこ)



1945年大阪府生まれ。1997年(株)アオキは航空機メーカーのボーイング社の認定工場に。また東大阪の技術力を生かし、人工衛星「まいど1号」を開発、2009年に打ち上げ成功。その後無人垂直飛行機「AKITU」も開発に成功した。2014年4月、国立和歌山大学客員教授に就任。2016年には大阪市立大学学長特別顧問に就任。現在は(一財)ものづくり医療コンソーシアムの理事としても活躍中。

**日本の生徒で
一番問題になると考えている国は**

リストの中野不二男さんが推していました。僕が電話すると、中国やアメリカから返事が来るお忙しい先生です。山形大学の城戸研究室は、志のある若者が次々に門をたたくことでした。ちなみに城戸先生は、僕の工場のある東大阪のご出身です。

若者といえば、文部科学大臣補佐官の肩書きをお持ちの鈴木寛さんも、関西ご出身です。

その鈴木さんが一番問題になると考えてることが、データによりますと、日本の生徒で自分が価値あると思うてる生徒が四割、同じ問いでアメリカは七割、中国や韓国は約九割。だめと思うてるのが日本で八割、アメリカ五割、中国四割、韓国三割だということだそうです。

日本の生徒は自己肯定感がめっちゃ低い。日本人はできるのに世の中にバッシングが溢れていて、できないと思ってしまう。この対策の一つとしては、試験を改革してマークシートを減らす、記述式を増やす。減点方式から加点方式に変えていく。

鈴木さんは二三世紀を生きる若者のために、さまざまな処方箋を用意しようとしてらっしゃいます。頼もしいなあ。僕も孫八人いますんでよろしうお願いします。

最後にご紹介するのは、原丈人さんです。この方は日本より海外で著名です。あまり日本にいらっしやらないからでしょう。

ベンチャー企業の社長から財団の代表理事、内閣府本府参与、経済財政諮問会議専門調査会会長代理など、本人も自分の肩書

き全部ご存知やろうか、と思うくらいのご活躍です。

原さんはお仕事の一つとして、バン格拉デシユのNGOと合弁で事業を行なっています。

その際、株主のNGOは配当金を出す必要がなく、それをそのまま農村部の医療や教育に使えるというユニークな方式なんです。

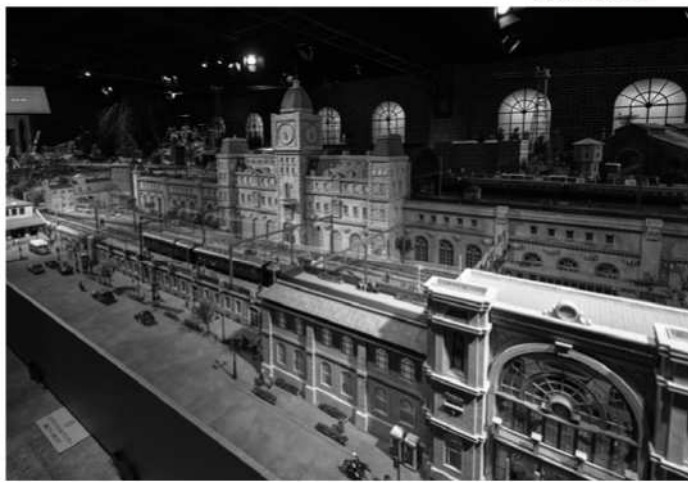
この方のお父さんは、原信太郎さんという実業家で、有名な鉄道模型マニアです。

ご自宅に伺ったことがありますが、一〇〇畳もある部屋に、鉄道路線が縦横に張り巡らされているというスケールが違う人物でした。

今回は僕にとつての関西出身の四人のサムライをご紹介しましたが、こんな真のエリートがおる日本は、まだまだ捨てたものやないと思います。

僕はこの人たちをつなぐボンド青木、つまり接着剤になれれば、と思ってます。

(撮影：木村文俊)



●原丈人さんが副館長の原鉄道模型博物館(横浜市)には、父親の原信太郎氏が制作・所蔵する世界一とも呼ばれる鉄道模型が